
3R 推進団体連絡会 第二次自主行動計画

2012 年フォローアップ報告

(2011 年度実績)

2012 年 12 月

3R 推進団体連絡会

ガラスびんリサイクル促進協議会
PET ボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

はじめに

■3R 推進団体連絡会 自主行動計画策定の経緯

2000年に完全施行された容器包装リサイクル法は、2006年6月にはじめての改正が行われました。改正に先立つ1年半にわたる中央環境審議会・産業構造審議会での議論の過程で、(一社)日本経済団体連合会(以下「経団連」)は、提言「実効ある容器包装リサイクル制度の構築に向けて」(2005年10月)を取りまとめ、事業者の自主的な取り組みが重要であること等を表明しました。

これを受けて、容器包装の素材に係るリサイクル八団体(以下「関係八団体」)は、3R推進団体連絡会を結成し、2005年12月、「容器包装リサイクル法の目的達成への提言」と題する提言を行い、事業者の決意をあらためて表明すると共に、翌2006年3月に2010年度を目標年次とした自主行動計画、「I. 事業者による3R推進に向けた自主行動計画」、及び「II. 主体間の連携に資する取り組み」を発表しました。

■計画のフォローアップと見直し

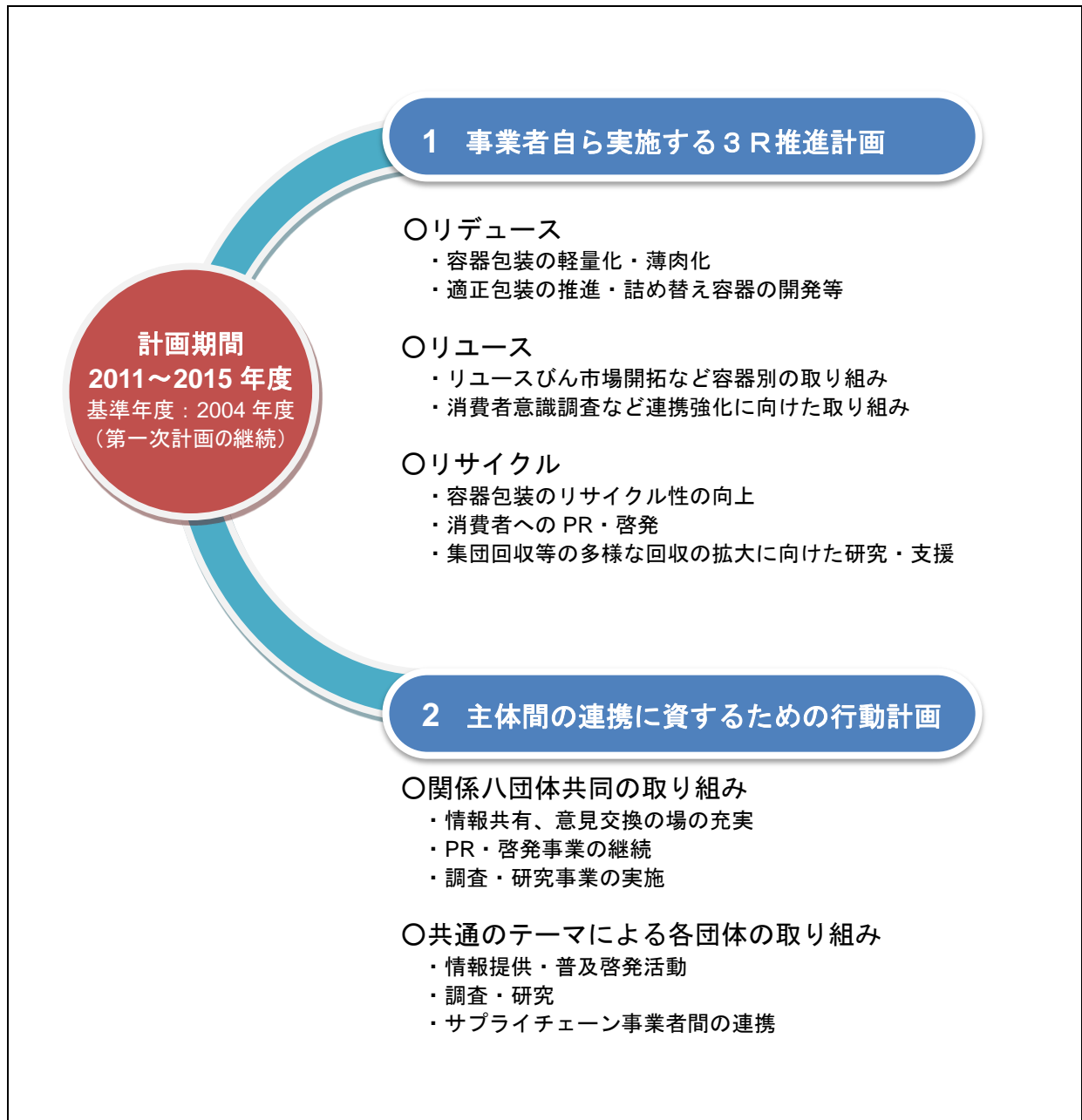
以後、当連絡会では計画項目の達成に向けた取り組みを進めるとともに、毎年度の進捗状況を、翌年12月にフォローアップ報告として公表してきました。数値目標も含め、共通の取り組み課題を持って事業者自身が3R推進に取り組んだこと、また、消費者や自治体、学識経験者など様々な主体との連携を図ってきたことなど、関係八団体が実施する初の共同の取り組みとして、一定の成果が挙げられたものと考えます。

■第二次自主行動計画

第二次自主行動計画は、このような過去5年間の成果等を踏まえ、容器包装の3Rを推進するための2011年度以降の取り組み目標を、第二次計画として策定したものです。

第二次自主行動計画の計画期間は、2011年度から2015年度までの5年間とします。事業者が自ら実施する3R推進のための行動計画、主体間の連携に資するための行動計画共に、毎年度の取り組み状況をフォローアップします。なお、数値目標の基準年度は第一次計画を継続し、2004年度とします。計画の体系は次ページの図のとおりです。

図1 第二次自主行動計画の体系



数値目標の進捗状況

1. リデュースの進捗状況

容器包装の軽量化はさらに進んでいます。

リデュースに関しては素材別に数値目標を定めて軽量化・薄肉化の取り組みを進めています。2011年度は、第二次自主行動計画の初年度にあたりますが、下表1に示すとおり、PETボトル、スチール缶、アルミ缶、段ボールで2015年度目標を達成する水準まで軽量化が進みました。今後とも、容器包装の本来の役割である中身製品の保護、安全・安心の確保を前提とし、製品全体の環境負荷軽減とのバランスに配慮しつつ、リデュースによる省資源化を進めていきます。

なお、各団体別の取り組み、例えば適正包装の推進や詰め替え容器の開発・普及、関連企業への周知徹底などの取り組みにつきましては、「各団体の取り組み」をご覧ください。

表1 リデュースに関する2011年度実績（2004年度比）

素材	2015年度目標※1 (2004年度比)	2011年度実績	2006年度からの累計削減量
ガラスびん※2	1本当たりの平均重量で2.8%の軽量化	2.0%	117千トン
PETボトル	指定PETボトル全体で10%の軽量化効果	10.5%	239千トン
紙製容器包装	総量で8%の削減	6.9%	504千トン
プラスチック製容器包装	削減率で13%	10.4%	52.5千トン
スチール缶※3	1缶当たりの平均重量で4%の軽量化	4.7%	95千トン
アルミ缶	1缶当たりの平均重量で3%の軽量化	3.0%	42.5千トン
飲料用紙容器※4	牛乳用500ml紙パックで3%の軽量化	0.3%	41トン(2011年9月から削減)
段ボール※5	1㎡当たりの平均重量で1.5%の軽量化	2.5%	675千トン

※1 各団体の目標値については、必要に応じて見直しを検討する。

※2 1本当たりの単純平均重量は2004年度に対し、7.0%の軽量化がはかられたが、容量構成比の変化が含まれるため、その要素を除いたネットの軽量化率は2.0%となった。

※3 1本当たりの単純平均重量は、2004年度に対し、6.10%の軽量化が図られたが、容量構成比の変化が含まれるため、その要素を除いたネットの軽量化は4.71%となった。

※4 2005年度比。紙パック原紙の仕様レベルで比較

※5 目標値見直し予定。

2. リサイクルの進捗状況

概ね目標に向けて進展、または高水準の維持が図られています。

リサイクルに関する 2015 年度目標と、2011 年度実績を下表 2 に示します。

用いられている指標は、素材により異なりますので、次ページの指標の定義一覧をご覧ください。なお、プラスチック製容器包装については、第一次自主行動計画の市町村収集量を分子とした「収集率」から店頭回収も考慮した「再資源化率」に指標を切り替えています。

2011 年度実績を見ると、缶やびん、段ボール、PET ボトルといった素材は、既に高い水準のリサイクル率、回収率となっています。今後も市況変動による影響を受けることが考えられますが、引き続きこの水準を維持していくことが求められます。

また、紙製容器包装やプラスチック製容器包装においては、様々な調査を通じて集団回収や店頭回収といった多様な回収ルートでの回収量把握を進めています。

なお、つぶしやすい容器包装の開発、減容化可能容器や複合素材についての研究、自主回収の促進など、各団体の取り組みについては、「各団体の取り組み」をご覧ください。

表 2 リサイクル率・回収率に関する 2011 年度実績

素材	指標 (※1)	2015 年度目標 (※2)	2011 年度実績
ガラスびん	リサイクル率 (カレット利用率)	70%以上 (97%以上)	69.6% (95.7%)
PET ボトル	リサイクル率	85%以上	85.8%
紙製容器包装	回収率	22%以上	20.7% (内、行政収集 15.5%)
プラスチック製 容器包装	再資源化率	44%以上	40.6%
スチール缶	リサイクル率	85%以上	90.4%
アルミ缶	リサイクル率	90%以上	92.5%
飲料用紙容器	回収率	50%以上	42.9%
段ボール	回収率	95%以上	96.2%

※1 指標の定義は次ページ参照

※2 各団体の目標値については、必要に応じて見直しを検討する。

※リサイクルに関する指標の定義一覧

ガラスびん

$$\text{リサイクル率} = \frac{\text{再生利用目的で利用事業者へ引渡されたカレット総重量}}{\text{国内消費量（出荷量＋輸入量－輸出量）}}$$

$$\text{カレット利用率} = \frac{\text{ガラスびんの原料に利用されるカレット総投入量}}{\text{ガラスびん生産量}}$$

PET ボトル

$$\text{リサイクル率} = \frac{\text{リサイクル量（国内＋海外再資源化量）}}{\text{国内 PET ボトル販売量}}$$

紙製容器包装

$$\text{回収率} = \frac{\text{紙製容器包装の回収実績（※1）}}{\text{紙製容器包装の家庭からの排出量（※2）}}$$

- ※1 回収物の組成分析調査、市町村アンケート調査より行政回収量・集団回収量を推定
 ※2 家庭からの排出量モニター調査より推定

プラスチック製
容器包装

$$\text{再資源化率} = \frac{\text{再商品化量（※1）＋店頭回収など自主的に回収した量（※2）}}{\text{排出見込み量（※1）}}$$

- ※1 公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会公表値
 ※2 実測値

スチール缶

$$\text{リサイクル率} = \frac{\text{国内鉄鋼会社等によるスチール缶（Cプレス・Cシュレッダー等）の購入量（※1）}}{\text{スチール缶（食缶・該当 18L 缶・一般缶）の国内消費量（出荷量＋輸入量－輸出量）}}$$

- ※1 購入量：アルミ蓋・水分・異物等を除いた量スチール缶以外の金属スクラップとして回収され、他規格の鉄スクラップとして再資源化されたものは含まれていない。

アルミ缶

$$\text{リサイクル率} = \frac{\text{再生地金等の製造に使用済みアルミ缶を利用した重量（※1）}}{\text{国内で出荷された缶重量（塗料を除く）}}$$

- ※1 組成率（スチール缶、水分、塗料等の異物を除いたアルミメタル重量の割合）を加味

飲料用紙容器

$$\text{回収率} = \frac{\text{国内飲料用紙パック回収量}}{\text{飲料用紙パック原紙使用量}}$$

段ボール

$$\text{回収率} = \frac{\text{段ボール古紙実質回収量（※1）}}{\text{段ボール原紙消費量（※2）＋輸出入商品用（※3）}}$$

- ※1 回収された段ボール古紙に含まれる段ボール以外の古紙及び段ボールに付着した糊の重量を除いて計算したもの
 ※2 段ボール工場における段ボール原紙消費量
 ※3 輸出入商品を梱包する段ボールの入超推定量

連携のための共同の取り組み

容器包装の3Rを進めるには、市民、事業者、行政といった各主体が自らの役割を果たすことはもちろんですが、主体間で連携していくことも大事です。当連絡会を構成する八団体は、主体間の連携に資するため、下表3に示す多種多様な取り組みを共同して進めてきました。次ページから、2012年初頭から11月までの取り組みの成果をご紹介します。

表3 主体間連携のための共同の取り組みの実施状況

年 度	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年
3R推進 フォーラム	横浜市 8/29・30	神戸市 9/19・20	東京都 10/6・7	京都市 10/22・23	さいたま市 10/25・26	名古屋市 10/24・25	仙台市 11/1・2
3Rセミナー	東京都 '07/2/28	北九州市 10/19 川崎市 '08/2/18	京都市 '09/3/7	仙台市 '10/2/2	名古屋市 '11/2/5	福岡市 '12/1/20	札幌市 9/3
3Rリーダー 交流会		交流会を 4回実施	交流会を 5回実施	3R啓発小冊子 「リサイクルの基本」 を作成	3R啓発小冊子 「リサイクルの基本」 完成・配付	「リサイクルの基 本」地域版 ワークショップ 川崎市	「リサイクルの 基本」地域版 ワークショップ 完成・配布 川崎市
展示会への 共同出展	3R活動推進 フォーラム 全国大会 10/19～21 名古屋市 エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	3R活動推進 フォーラム 全国大会 10/17～19 北九州市 エコプロダクツ展 12/13～15 東京都	3R活動推進 フォーラム 全国大会 10/24～26 山形市 エコプロダクツ展 12/11～13 東京都	3R活動推進 フォーラム 全国大会 10/16～18 千葉市 エコプロダクツ展 12/10～12 東京都	2010 東京国際包装展 (東京パック2010) 10/5～8 東京都 エコプロダクツ展 12/9～11 東京都	エコプロダクツ展 12/15～17 東京都	エコプロダクツ展 12/13～15 東京都
AC支援によ る啓発事業			なくなるといな 「ごみ」 という言葉	リサイクルの夢	ちょっとだけ バイバイ		
マスコミ セミナー・ 交流会				消費者の3R行 動に影響するマ スコミ報道を考 える 9/18 東京都	マスコミ関係者 と3R推進団体が 語り合う懇談会 8/26・11/26 東京都	市民リーダー3R 推進モデル講座	市民リーダー 3R推進モデル 講座
各主体の 参画する 研究会					容器包装3R 制度研究会 (年3回実施)	容器包装3R 制度研究会 (年2回実施)	容器包装3R 制度研究会 公開ヒアリング 東京・京都・ 仙台
消費者意識 調査				第1回調査		第2回調査	
その他	共通ポスター 作成 各団体のホーム ページリンク化		ホームページの 開設				3R推進団 体連絡会 啓発用パンフ 作成

■3R フォーラム in 仙台

当連絡会では、2006 年度から「容器包装 3 R 推進フォーラム」を開催しています。これまで横浜市、神戸市、東京都、京都市、さいたま市、名古屋市において6回のフォーラムを開催し、各主体間の情報共有と問題意識の共有を図ってきました。これまでのフォーラム開催結果は報告書にまとめ当連絡会ホームページ (<http://www.3r-suishin.jp/>) で公開しているほか、全国市区町村に配布しています。

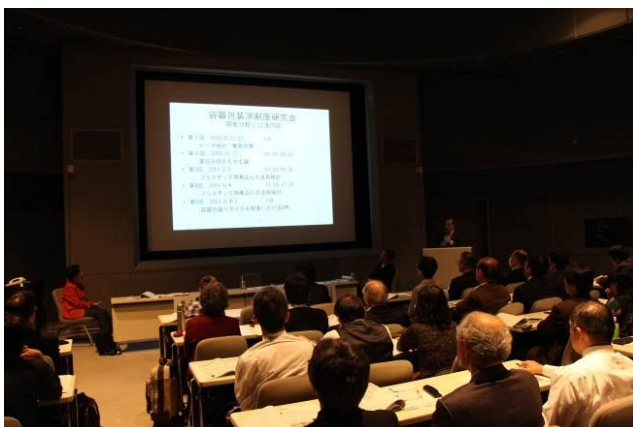
2012 年度の第7回フォーラムは、開催地を仙台として東北の取り組みに学びながら、そして容器包装リサイクル法見直しの時期でもあるため、容器包装 3 R 制度はどうあるべきかといった将来を見据えたテーマを設定しました。また、震災時の廃棄物行政運営についても取り上げました。

2 日間の日程の第1日目、11月1日は、仙台市青年文化センターに122名の来場者を迎え、基調講演、国の政策報告及び分科会が実施されました。基調講演は東北大学大学院教授の吉岡敏明氏による『容リ制度の将来～容リプラを中心に』と題してお話をいただきました。

分科会のテーマは以下の通りです。

- 【第1分科会】 あるべき容器包装 3 R 制度～情報交換会～
- 【第2分科会】 容器包装の機能と役割（プラと紙を中心に）
- 【第3分科会】 災害時における容器包装等の収集・処理

第2日目の11月2日は、42名の参加で仙台市が収集するプラスチック製容器包装の中間処理をしている、新港リサイクル株式会社と、仙台市内の震災ガレキの仮置き場・仮設焼却施設として利用されている井戸搬入場を見学しました。



分科会写真



見学会（井戸搬入場）写真

■セミナーの開催

容器包装に関する消費者・自治体・事業者の取り組みの現実を知ること、地域での3R活動をやるに当たっての課題解決など、様々な主体と共によりよい取り組みにつなげていくためのきっかけづくりとなることを目指してセミナーを開催しています。これまで開催したセミナーの報告書は、ホームページに掲載しています。

2011年度セミナーは、2012年1月20日に福岡市で開催されました。会場である福岡市健康センターには179名の市民の皆さんが参加し、基調講演として福岡大学工学部教授松藤康司氏より「元気が持続する循環のまち・ふくおか」、パネルディスカッションとして「3R推進に向けて協働し何が出来る？」をテーマにリサイクル市民団体や事業者、福岡市担当者をパネラーに迎え、活発な情報交換が行われました。

2012年度のセミナーは、札幌市を会場として2012年9月3日に札幌エルプラザ内札幌市男女共同参画センター3Fホールにて、115名の市民の皆さんの参加を得て開催されました。

基調講演は「ごみ処理・リサイクルのための目的とライフサイクル的視点の重要性」と題して北海道大学大学院工学研究院教授 松藤敏彦氏からお話をいただき、さらに活動報告として当連絡会より「容器包装の機能と環境配慮の取り組み」についてプラスチック容器包装を中心に報告を行いました。

また、第三部のパネルディスカッションでは札幌市の市民団体、事業者、行政関係者を交えて3R推進に向けて協働し何が出来るかをディスカッションしました。



セミナー（福岡市）写真

■3R推進市民リーダー育成講座

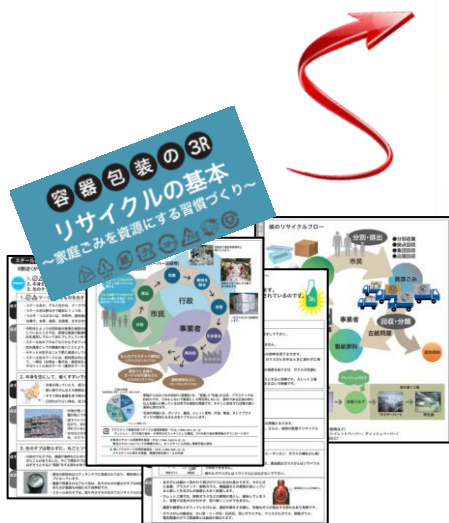
2011年度から2012年度にかけ、都内の消費者リーダーの方々が、一般消費者にいかによりリサイクルを伝えるかを考え、イベント等で使える講座プログラムを作成しています。この中で、八団体とリーダーとの意見交換・質問等を重ね、地元のイベントで披露する段階まで来ています。



講座風景

■リサイクルの基本「地域版」ワークショップ

川崎市において、「リサイクルの基本」を地域住民の理解できる、地域の実状に合った冊子に作り変える作業を市民リーダーが中心となり行い、八団体もアドバイスし、参加しています。この結果、リサイクルの基本・川崎市版となる「かわさき スマートリサイクル ごみの分別・資源化ガイド」を作成し、地域の展示会にて配布しました。



かわさき スマートリサイクル ごみの分別・資源化ガイド

■容器包装 3R 制度研究会の公開ヒアリング実施



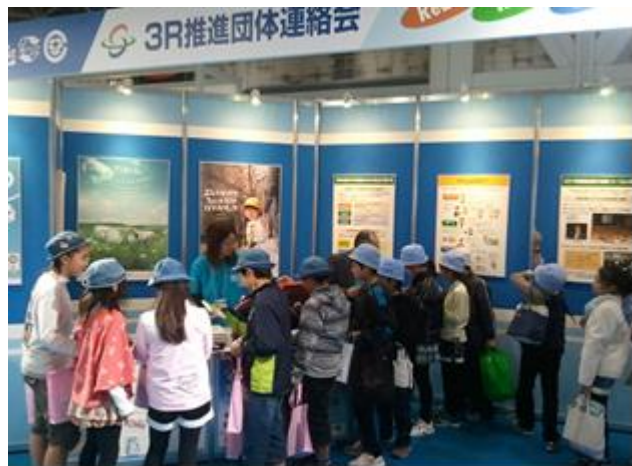
■容器包装 3R 制度研究会 公開ヒアリング

よりよい容器包装 3R 制度に向け、業界だけでなく消費者や自治体、学識者を変え、現行制度の改良・改善の課題、制度見直しにおける主要な論点について検討するため、「容器包装 3R 制度研究会」を 2010 年度から継続的に行っており、2011 年度は研究会としてのまとめ（概要）を行いました。2012 年度に入り、この「容器包装 3R 制度研究会まとめ」について公開ヒアリングを継続的に実施し、議論を深めています。

※「容器包装 3R 制度研究会まとめ」（概要）は、本報告書末尾（p.38～41）資料 2 に添付しています。ご参照ください。

■展示会への出展

日本最大の環境イベントであるエコプロダクツ2012(2012年12月13～15日)に、3R推進団体連絡会を構成する八団体が共同出展を行います。それぞれの団体がブース出展を行うほか、連絡会の共通ブースでは、連絡会としての取り組みのパネル展示等を行い、八団体を巡るクイズラリーも行います(右の写真はエコプロダクツ2011のものです)。



エコプロダクツ2011 共同出展

■小冊子「リサイクルの基本」の配布

市民リーダーとの共同作業の成果である小冊子「リサイクルの基本」は、容器包装のリサイクルについて全ての容器包装を網羅した分かりやすい情報・啓発冊子としてご好評をいただいています。

本冊子はホームページにてPDF版を公開しているほか、ご希望の自治体、市民団体等には無料で配布しており、2012年11月までの累計で6,000部以上を配布しています。



リサイクルの基本

■ホームページによる情報発信

当連絡会では、ホームページにおいてこれまでの活動の記録、フォローアップ報告などの情報を掲載しています(<http://www.3r-suishin.jp/>)。

今年度は「容リ法見直し審議にあたっての提言」(本報告書 p.42、資料3参照)や、3Rに関するQ&Aも盛り込んだ当連絡会のパンフレットも掲載しました。



3R推進団体連絡会ホームページ

ガラスびん

■びんリユース促進のための実証事業や全国各地域で展開される取り組みの推進

びんリユースの存続には、消費者・自治体・事業者の連携した取り組みが必須です。

2011 年度は環境省のびんリユースを促進する実証事業において、自治体や事業者等の多様な関係者が連携した地域型びんリユースシステムの構築に取り組みました。



Rマーク付720mlガラスびん

このびんを使った商品をお買い求めください。

このびんは回収します。販売店に返却するか資源回収に出してください。

環境省支援事業
郡山市容器リユース実証事業は、環境省のびんリユースシステム構築に向けた実証事業に認定されました。

東日本大震災復興支援
昔年から回収した8720びんの売却代金の一部を、東日本大震災復興に寄付いたします。

郡山市容器リユース推進協議会
郡山市 郡山市理山1-3-11 鶴島野郎(株)内
TEL 024-940-1345

郡山市容器リユースモデル実証事業



スキッと、誕生!
十萬馬力新宿サイダー

空きびんは販売店へ!

スキッと爽やかな十萬馬力新宿サイダー。くり返し使えるリユースびんによって、環境にやさしい。暑い夏に最適な爽やかな飲み物です。調製したのが環境省認定企業であるアトムをぜひあじわってください。

アトム通貨 空きびん返却で、アトム通貨50馬力をゲット!

十萬馬力新宿サイダーのびんは、くり返し使うことで、おトクなアトム通貨が貯まります。アトム通貨はアトム通貨ショップで使えます。アトム通貨はアトム通貨ショップで使えます。アトム通貨はアトム通貨ショップで使えます。

アトム通貨ショップはアトム通貨ショップで使えます。アトム通貨はアトム通貨ショップで使えます。アトム通貨はアトム通貨ショップで使えます。

アトム通貨ショップはアトム通貨ショップで使えます。アトム通貨はアトム通貨ショップで使えます。アトム通貨はアトム通貨ショップで使えます。

「十萬馬力新宿サイダー」の開発サポート事業

また、2009年2月に立上げたWEBサイト「リターナブルびんポータルサイト」にて、全国各地域で展開されるびんリユースの取り組みの紹介をおこない、リユース推進活動の「見える化」と情報発信に努めました。

WEBサイト
「リターナブルびんポータルサイト」
(<http://www.returnable-navi.com/>)



リターナブルびんポータルサイト
Returnable bottle Portal site

リターナブルびんナビ

リターナブルびんとは？
リターナブルびんモデル事業
リターナブルびんの環境データ
リターナブルびん市場解説
リターナブルびん調査資料
利用促進に向けたさまざまな取組み

びんリユース推進全国協議会

リターナブル商品を検索

商品の種類から、取り扱う企業の情報が検索できます

Returnable Headline

リターナブルびんとは何か？ びん商の取り組み
リターナブルびんの仕組みを紹介するコンテンツを追加。まずは、お店や市町村から回収されたリターナブルびんを洗びする“びん商”の取り組みをご紹介します。

第7回我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会
びんリユースシステムの検討会の第7回目が開催されました。今回は、「平成23年度びんリユースシステム構築に向けた実証事業」に認定された4事業の成果報告が行われました。

現在の登録状況
● 登録会社: 105社
● 登録商品: 1208点

■びんのリデュースをホームページやイベントなどで積極的にアピール

びんの軽量化の取り組みは、ガラスびんメーカーと中身メーカーが連携して積極的に進められており、細部にわたる製びん技術の向上や充填ラインにおける配慮などにより、40%以上軽量化されたガラスびんも登場しています。

<p>ココ・コーラ ゼロ (242ml) 日本コカ</p> <p>■商品について リターナブルびん入りココ・コーラのカロリーゼロ製品。主としてホテルやレストランなど、あきびんの返却が確実な飲食業で販売しています。(発売地域:主として関東)</p> <p>■軽量化について(工夫したところ等) 従来のリターナブルびんは、369gのびん重量、192mlの内容量でしたが、新たに開発した軽量リターナブルびんは、従来びんに比べ、119g、32%軽量化し、且つ、外寸はそのままに、内容量は242mlと、50ml増量が可能になりました。卸価格は据え置かれており、結果として容量の増加による付加価値を提供しています。(2009年開発、2010年5月導入)</p>		<p>チオピタ・ドリンク (100ml) 大日本製薬工業株式会社</p> <p>■商品について 「愛情一本」でおなじみのチオピタ・ドリンクは、滋養強壮剤として40年以上にわたりご愛飲いただいています。</p> <p>■軽量化について(工夫したところ等) びん強度を保持し、見た目の形状を変えずに軽量化するため、肉厚を均一にして薄肉化(軽量化)を実現しました。昭和39年の発売以来、軽量化および構造の変更などの工夫を重ねてきましたが、2010年からさらにびんを軽量化しました。今後も環境負荷低減の対応に向けて一層の努力をしていきます。</p>																		
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>従来</td> <td>軽量化後</td> </tr> <tr> <td>びんの質量 キャップ・ラベル 中身を含まない 1本当たりの重量</td> <td>107g</td> <td>99g</td> </tr> <tr> <td>びんの高さ</td> <td>119 mm</td> <td>119 mm</td> </tr> </table>		従来	軽量化後		びんの質量 キャップ・ラベル 中身を含まない 1本当たりの重量	107g	99g	びんの高さ	119 mm	119 mm	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>従来</td> <td>軽量化後</td> </tr> <tr> <td>びんの質量 キャップ・ラベル 中身を含まない 1本当たりの重量</td> <td>369g</td> <td>250g</td> </tr> <tr> <td>びんの高さ</td> <td>197 mm</td> <td>197 mm</td> </tr> </table>		従来	軽量化後	びんの質量 キャップ・ラベル 中身を含まない 1本当たりの重量	369g	250g	びんの高さ	197 mm	197 mm
	従来	軽量化後																		
びんの質量 キャップ・ラベル 中身を含まない 1本当たりの重量	107g	99g																		
びんの高さ	119 mm	119 mm																		
	従来	軽量化後																		
びんの質量 キャップ・ラベル 中身を含まない 1本当たりの重量	369g	250g																		
びんの高さ	197 mm	197 mm																		

軽くなったびん入り商品を紹介している当協会のホームページ (2011 年度掲載商品)
<http://www.glass-recycle-as.gr.jp/consumer/index1.html>

びんの軽量化について広く理解していただくために、軽くなったびん入り商品を紹介する「ホームページ」、びんの重量比較ができる「エコプロダクツ展」、びんのリデュースをテーマとした「ポスターコンクール」などで積極的にアピールしています。



エコプロダクツ展におけるびんに軽量化比較



2011 年度ポスターコンクール
で入賞したリデュースの作品

■ ガラスびん再資源化量の拡大に向けた取り組みの推進

ガラスびんは分別収集の際に、細かく割れて色分けできない残渣を減らすことが課題となっています。全国自治体の分別収集の実態調査アンケートを実施する共に、自治体別住民1人当たり収集量の集計をおこないその実態を明らかにしました。また、あきびんの品質向上に取り組んでいる全国自治体の取り組み事例を「ホームページ」で紹介しています。

ガラスびんリサイクル促進協議会	
平成22年度全国自治体調査結果報告書	
1. 化粧品びん分別収集状況	1
2. ガラスびん排出指導実態（基準）	3
①市民排出方法	
②びんラベル剥離指導	
3. 金属キャップ排出指導実態	7

全国自治体実態調査報告書
(2011年3月アンケート実施)

ガラスびんリサイクル促進協議会					
平成21年度 市町村別 ガラスびん分別収集実績					
環境省の資料によると、平成21年度の日本国内のガラスびんの行政による年間分別収集実績は約80万トン、一人当たり平均収集量にすると、6.25キロとなります。但し、市町村別の実績で詳しく見ていくと、一人当たり収集量は最上位の16.00kgから最下位の0.26kgまで大きく差異があるのが現状です。この差異には、びん商品の消費実態や昼夜間人口差など複合要因が考えられますが、ガラスびんの収集実態を示す指標として、意味があるものではないか発表させていただきます。今後のガラスびん資源循環促進に向けて、分別収集効率改善のご提案に結びつけていきたいと考えております。					
平成21年度 全国および人口10万人以上の市及び東京特別区のガラスびん収集実績					
	人口	無色ガラス	その他ガラス	茶色ガラス	合計(トン)
日本全国の収集実績	127,076,183	324,390	186,552	283,091	794,032
人口10万人以上の市・東京特別区の収集実績	86,307,500	224,930	131,218	174,491	535,962
1人当たりの収集量(全国平均)		6.25 kg/人			
1人当たりの収集量(人口10万人以上の市・東京特別区平均)		6.21 kg/人			

自治体別住民1人当たり分別収集量集計結果

鎌倉市
 ■連絡先 鎌倉市環境部 神奈川県鎌倉市御成町18-10 TEL:0467-51-3395 FAX:0467-23-8700

鎌倉市の概要(平成23年6月現在)

- 人口:174,357人
- 世帯数:72,836世帯
- 面積:39.58km²
- ステーション数:4240カ所
- あきびん収集量:年間1,660t
(平成22年度リサイクルセンター搬入量)

分別収集の経緯・方針

平成2年より、ごみの減量化・資源化を推進するための「ごみのダイエット運動」を展開。平成8年11月には、燃やすごみを減らす「ごみ半減都市宣言」を行い、平成9年7月より家庭から排出される廃棄物の5分別収集を開始しました。環境省による「一般廃棄物の排出及び処理状況等に関する調査」では、平成16年度から平成20年度まで5年連続、リサイクル率が全国第1位となっています。現在、ガラスびんについては地区ごとに週1回コンテナで回収し、リサイクルセンターにおいて選別作業を実施。排出されるびんの品質は概ね良好で、システム化された施設では品質保持への配慮が施されています。

分別区分 ガラスびん一括



ガラスびん一括で排出。色分けは行っていない。排出されたびんのほとんどが洗浄されていて、キャップ等、異物の混入は少ない。

収集容器 コンテナ



委託業者が収集日前日に各ステーションに設置。折りたたみ式で、「飲食用ビン専用」(袋から出して入れて下さい)と記載。

集積場所 ステーション



市の指導員が見回ることもありますが、基本的にステーションは各自治体が管理しています。排出は収集日の朝8時30分まで。

収集車両 アルミバン



2トンのアルミバン10台と軽自動車1台を採用。荷台が狭いため雨に濡れません。1台の車庫に2名の作業員で収集しています。

処理設備 手選別コンベア



コンテナごと手選別コンベアに載せられ、まずリターナブルびんが分けられ、その後、茶色・無色・その他の色に選別します。

保管施設 貯留ホッパ



施設の2階で色分けされたびんは、1階の天井に設置された貯留ホッパに保管。そこから搬出トラックの荷台に積載されます。

市町村の取り組み事例を紹介している当協議会のホームページ(2011年7月掲載 鎌倉市)
http://www.glass-recycle-as.gr.jp/gover/index7_6.html

資 料

資料 1 過去データ

■リデュース実績総括表

素材	第一次自主行動計画		第二次自主行動計画	
	2010 年度目標 (2004 年度比)	2010 年度実績	2015 年度目標 (2004 年度比)	2011 年度実績 (2006 年度からの 累積削減量)
ガラスびん	1 本当たりの平均重量で 1.5% の軽量化	1.7%	1 本当たりの平均重量で 2.8% の軽量化	2.0% (117 千トン)
PET ボトル	主な容器サイズ・用途ごとに 1 本あたりの平均重量を 3% 軽量化する	15 種中 13 種で 0.2 ~ 19% の軽量化。9 種で 3% の目標を達成。全体としての軽量化率で 8.2%。	指定 PET ボトル全体で 10% の軽量化効果	10.5% (239 千トン)
紙製容器包装	2% 削減	6.7%	総量で 8% の削減	6.9% (504 千トン)
プラスチック製容器包装	3% 削減	9.8%	削減率で 13%	10.4% (52.5 千トン)
スチール缶	1 缶当たりの平均重量で 2% の軽量化	4.1%	1 缶当たりの平均重量で 4% の軽量化	4.7% (95 千トン)
アルミ缶	1 缶当たりの平均重量で 1% の軽量化	2.5%	1 缶当たりの平均重量で 3% の軽量化	3.0% (42.5 千トン)
飲料用紙容器	重量を平均 1% 軽量化	現状維持	牛乳用 500ml 紙パックで 3% の軽量化	0.3% (41 トン) (2011 年 9 月から)
段ボール	1 m ² 当たりの平均重量で 1% の軽量化	1.8%	1 m ² 当たりの平均重量で 1.5% の軽量化	2.5% (675 千トン)

■ リサイクル実績総括表

素材	第一次自主行動計画		第二次自主行動計画	
	2010 年度 目標	2010 年度 実績	2015 年度 目標	2011 年度 実績
ガラスびん	カレット利用率 91%以上 〔リサイクル率〕 70%以上	96.8% (67.1%)	リサイクル率 70%以上 〔カレット利用率〕 97%以上	69.6% (95.7%)
PET ボトル	回収率 75%以上	72.2%	リサイクル率 85%以上	85.8%
紙製容器包装	回収率 20%以上	20.3% 〔内、行政回収〕 13.9%	回収率 22%以上	20.7% 〔内、行政回収〕 15.5%
プラスチック 製容器包装	収集率 75%以上	60.1%	再資源化率 44%以上	40.6%
スチール缶	リサイクル率 85%以上	89.4%	リサイクル率 85%以上	90.4%
アルミ缶	リサイクル率 90%以上	92.6%	リサイクル率 90%以上	92.5%
飲料用紙容器	回収率 50%以上	43.6%	回収率 50%以上	42.9%
段ボール	回収率 90%以上	99.3%	回収率 95%以上	96.2%

資料4 3R推進団体連絡会 構成団体

■ガラスびんリサイクル促進協議会

〒169-0073 新宿区百人町 3-21-16 日本ガラス工業センター1F

<http://www.glass-recycle-as.gr.jp>

■PETボトルリサイクル推進協議会

〒103-0001 中央区日本橋小伝馬町 7-16 ニッケイビル 2F

<http://www.petbottle-rec.gr.jp>

■紙製容器包装リサイクル推進協議会

〒105-0003 港区西新橋 1-1-21 日本酒造会館 3F

<http://www.kami-suisinkyo.org>

■プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

〒105-0003 港区西新橋 1-1-21 日本酒造会館 3F

<http://www.pprc.gr.jp>

■スチール缶リサイクル協会

〒104-0061 中央区銀座 7-16-3 日鉄木挽ビル 1F

<http://www.steelcan.jp>

■アルミ缶リサイクル協会

〒107-0052 港区赤坂 2-13-13 アープセンタービル 3F

<http://www.alumi-can.or.jp>

■飲料用紙容器リサイクル協議会

〒102-0073 千代田区九段北 1-14-19 乳業会館

<http://www.yokankyo.jp/InKami/>

■段ボールリサイクル協議会

〒104-8139 中央区銀座 3-9-11 紙パルプ会館 全国段ボール工業組合連合会 内

<http://www.danrikyo.jp>